



この世には、成功か大成功しか存在しない

「久しぶりー！」

何度も教室に響くみんなの声。

しばらくぶりに学校が始まり、4-1の教室に元気な声と笑顔が戻ってきました。

長期休暇が明けて仕切り直してのスタートとなった今日。

最初の学活で、大切な話をしました。

「この世には、成功と大成功しか存在しない。」

この言葉を聞いて、どう思うでしょうか。

賛成でしょうか。

それとも反対でしょうか。

実際みんなの反応は、8：2といったところでした。

8が賛成で、2が反対。

この結果は、通常のクラスであれば全く反対の反応になります。

普通感覚で言えば、そんな訳ないじゃん！と思う人がほとんどでしょう。

では、世にいう所の「失敗」とは一体何でしょう。

逆上がりの練習をしたんだけど、できなかった。

だから失敗。

計算の練習をいっぱいしたんだけど、満点を逃した。

だから失敗。

友だちと仲良くしようとしたんだけど、なぜかまた怒らせちゃった。

だから失敗。

多くの人がこう思っているのではないのでしょうか。
でも、それは違います。
失敗を作っているのは、実は自分自身です。
と、このように伝えて、次のたとえ話を加えました。

例えば、私がバレエのレッスンを受けに行ったとします。
もちろん、今まで一度も練習したことはありません。
そこで、一年レッスンを受ける予定だったのが、結局一週間で辞めて帰ってきたとします。
当然、プロのバレリーナのように踊れるわけではありません。
長年練習を続けている人のように、華麗なステップが踏めるわけでもありません。
この時、自分より上手な人たちのことを見て、「あの人みたいにうまく踊れない。」「私なんて全然ダメだ」と落ち込み、このことを挫折や失敗と捉え益々ネガティブになってしまう人がいます。
というか、そういう人が圧倒的に多いです。
でも、これはそもそも「他人と比較」しているからこそ生まれた感情です。
上手な人や、プロと比べるから、そうなるのです。
これを、「過去の自分」と比較すると、どうなるか。
全くの素人だった私が、3日で立ち方が出来るようになった。
一週間たって、前よりもきれいな姿勢で歩けるようになった。
これは、紛れもない「成功」です。
何もできなかった以前の自分に、進歩や成長が生まれているからです。
同じように、例えばパソコンに全く触れたことの無い人がいるとします。
その人が、パソコン教室に通って、でも10分で帰ってきたとします。
当然、パソコン教室の先生のように操作はできません。
華麗なブライドタッチも複雑なプログラミングも不可能です。
でも、10分経てば電源の入れ方くらいは分かります。
同じく、過去の自分と比べれば間違いなく「成功」です。
以前の自分にできなかったことができるようになったからです。
逆上がりの練習をしたんだけど、できなかった。
でも、以前に比べて腕力はついています。
ダンゴ虫も、前よりは長くぶら下がるようになったでしょう。

出来ている人と比べれば失敗、でも過去の自分と比べれば成功。
計算の練習をいっぱいしたんだけど、満点を逃した。
満点を取った人と比べれば失敗。
でも、勉強をする前の自分よりはるかに出来るようになっていきます。
それは、あなたが行動を起こしたからです。
友だちと仲良くしようとしたんだけど、なぜかまた怒らせちゃった。
ケンカで誰とでも仲良く付き合える人と比べれば、失敗でしょう。
でも、仲良くしようとしたあなたは、前よりもきっと人の気持ちを思い、
考えたはずです。

子どもたちは、一つ一つの話を読みながら聞いていました。
聞いている中で、どんどん表情が明るくなっていく子たちもいました。
「なるほど～」とつぶやく子たちも大勢いました。
これらの話から分かるヒントは2つ。

- 他人と比べるのではなく、過去の自分と比べると成功しか生まれません。
- この世は、常に行動した人が得（成功）をする。

「自分で動く」、そして「成功を得る」。

このサイクルを回していけるようになれば、最終的に教室から私はいらなくなると思います。

事実、4-1の教室ではどんどん私の指導が不要な場面が増え、声かけも激減してきています。

それはつまり、みんなが「自分で動く」量が増えたという事です。

自分で、成功を起こし手に入れるサイクルが回り始めているのです。

上の話を終えて、感想を聞いてみました。

「失敗することがいやで行動しないことがあったんだけど、今の話を聞いてもっと行動しようと思いました。」

「〇〇の習い事で、私は行動を続けていたから大成功したんだと思いました。」

「どんどん行動すれば、たくさんの成功がやってくるんだということが分かって感動しました。」

一つ一つの発表がなされるたびに、教室内からはたくさんの拍手も起こりました。

行動すれば、成功か大成功しか存在しない。

このことを、伝えるためのお話でした。

「地球は行動の星である」とも言われます。

行動をすればするほど成功する、という意味のお話です。

行動をした瞬間、成長が生まれます。

何かの行動を起こした段階で、過去の自分からは一歩二歩と着実に前進を遂げているからです。

動くことで新たな経験や学びを得て、知識が増したり、技能が磨かれたりしていくからです。

成長を続けていくと、いつしか成功につながります。

この仕組みが分かっている人は、行動することを惜しみません。

行動する→成長する→行動する→成長する→行動する→成功する…。

このサイクルから、いつしか「大成功」が生まれます。

ではなぜ、こうしたシンプルな仕組みがありながらも、人は行動をためらうのでしょうか。

その原因の一つは、「成功」の反対を「失敗」と勘違いしているからです。

仮に成功がカッコ良いことなら、反対の失敗はカッコ悪いことになります。

成功がすき好まれるものなら、失敗は忌み嫌われるものになります。

成功が誇らしいことなら、反対の失敗は恥ずかしいことになります。

でも、ここではちょっと立ち止まって考える必要があります。

失敗とは本当にカッコ悪くて忌み嫌われる恥ずかしいものなののでしょうか。

その偏ったイメージによって我々は何か大きな損をしていないのでしょうか。

人類のあらゆる文明は、数えきれないほどの失敗の上に生まれました。

世の第一線を走る方々は、皆口を揃えて「失敗の価値」を語ります。

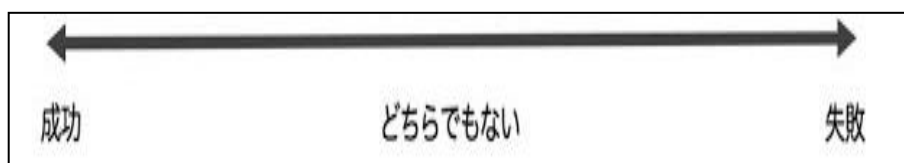
もう一度考えてみましょう。

失敗とは本当にカッコ悪くて忌み嫌われる恥ずかしいものなののでしょうか。

「折り曲げの法則」というものがあります。

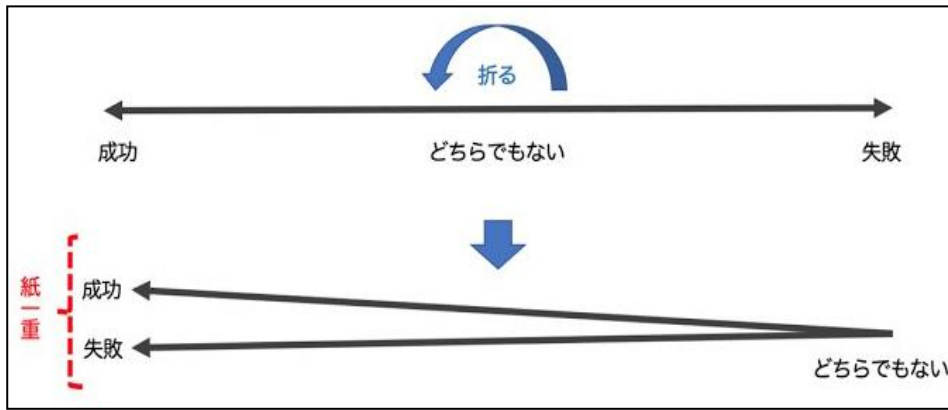
一般的に「反対」と思われているものが、実はほとんど紙一重でありたくさんの共通性を持っているというものです。

例えば、成功と失敗のイメージを一般的な図で表すとこうなります。



それを、パタンと真ん中から折り曲げてみましょう。

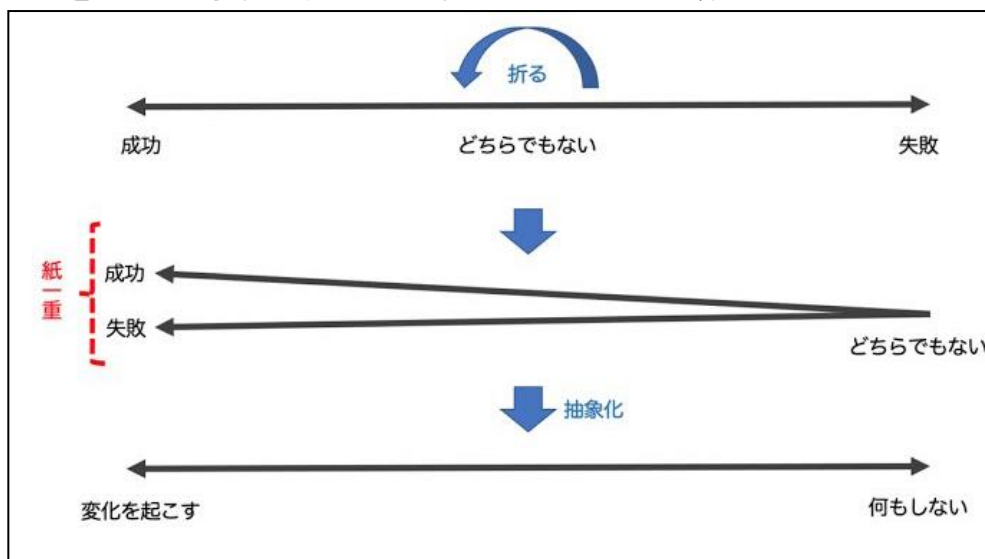
すると、成功と失敗の間に面白い共通点が見えてきます。



成功と失敗には、「変化を起こす」という共通点があります。
 この変化こそが、先から繰り返し書いている「成長」です。
 対して、どちらでもない、つまり「何もしない」は無変化です。
 そこには、成長も成功も生まれません。
 成功の反対は、失敗ではないのです。
 失敗の反対も、成功ではないのです。
 両者は紙一重、いわば双子の兄弟のような間柄です。
 変化や成長を自分にもたらず、希望の言葉です。
 そして、対極にある反対の言葉がこれです。

「何もしない」

成功の反対は、何もしない。
 それはそうです。行動しなければ成功しないのですから。
 失敗の反対は、何もしない。
 それはそうです。行動しなければ失敗しないのですから。
 行動しない→成長しない→行動しない→成功しない…
 このサイクルに陥ってしまうと、一切の成長が生まれなくなります。
 本当に恐れる必要があるのは、このループに陥ることだといえます。



改めてですが、人が成長していく上での最重要キーワードが「行動」です。行動したところには、必ず成長が生まれます。

成長はいつしか目に見える形となって現れ、成功を手繰り寄せます。

その仕組みを体感した人には、大成功への道が開かれているといえるでしょう。

行動の価値を、失敗の価値を、これからも伝え続けていくと共に、良い模範ややり方を示し、明確に褒められるように心がけていきます。

第2クォーター後半も、どうぞよろしくお願いいたします。

(ちなみに今週金曜日(25日)の4時間目の道徳は、とてもおすすめの授業です。2023にピッタリの内容となっていますので、もしご都合つく場合はぜひ参観にいらしてください。お待ちしております。)

☆↓読者ページはこちらから↓☆ご意見ご感想など気軽にお寄せください

<https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcjpcWaimWdu-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit>

